

小牧市のまちづくりに関する市民アンケート調査結果(速報版)の概要

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、小牧市都市計画マスタープラン（計画期間：平成22年度～平成31年度）策定後における市民ニーズや課題等の変化について把握するとともに、立地適正化計画策定に向けた「コンパクトなまちづくり」に対する市民意識等について把握することを目的としています。

(2) 調査方法及び調査対象、回答結果

	内容		内容
調査対象	小牧市に在住の18歳以上の方	配布数	3,000
調査規模	3,000人	回収数	1,604
抽出方法	無作為抽出	有効回答数	1,604
調査方法	配布・回答ともに郵送方法	有効回答率	53.5%
調査時期	平成27年9月5日～9月18日	必要標本数 (※)	1,058 (回答数が上回った為、この回答は有効)

※H27年4月時点の18歳以上の人口を母集団とし、信頼度95%で調査精度±3%を確保する場合

2. 調査結果

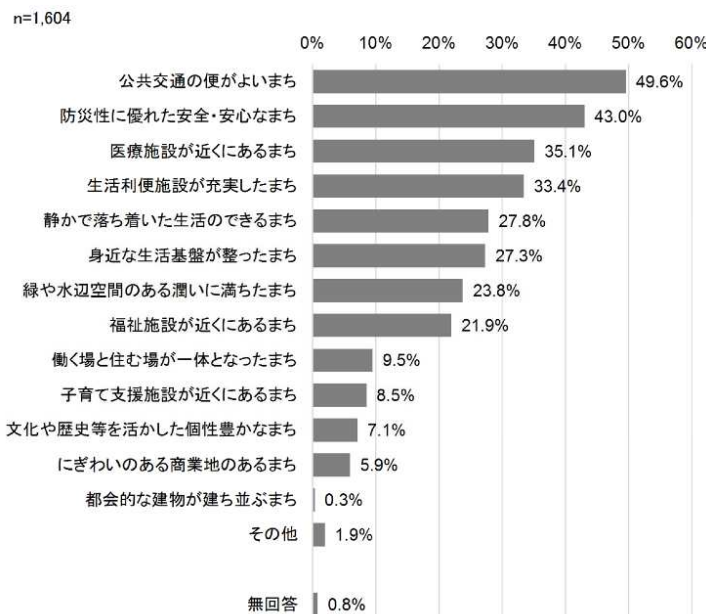
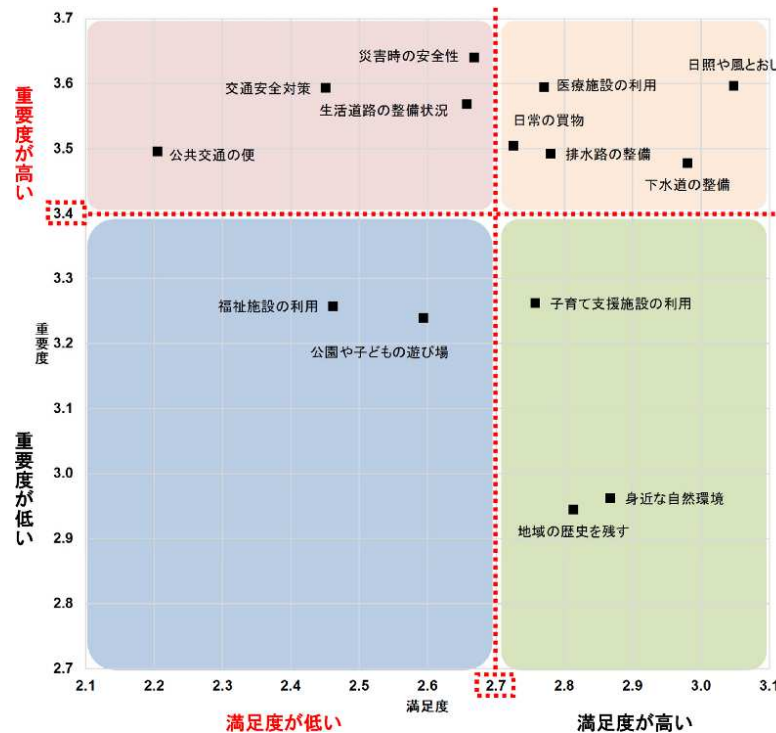
(1) お住まいの地区の生活環境に対する評価や地区の将来像について

〈問6 P.10～20〉環境や日常生活に関する満足度・重要度

- 「公共交通の便」、「交通安全対策」、「災害時の安全性」、「生活道路の整備状況」において、満足度が低く重要度が高くなっていることから、改善を進める必要性が高い取り組みと考えられます。
- 現行計画策定時に行った調査結果と比較して、市民ニーズにあまり大きな変化は見られません。

〈問7 P.21～23〉お住まいの地区の概ね10年～20年後の将来像

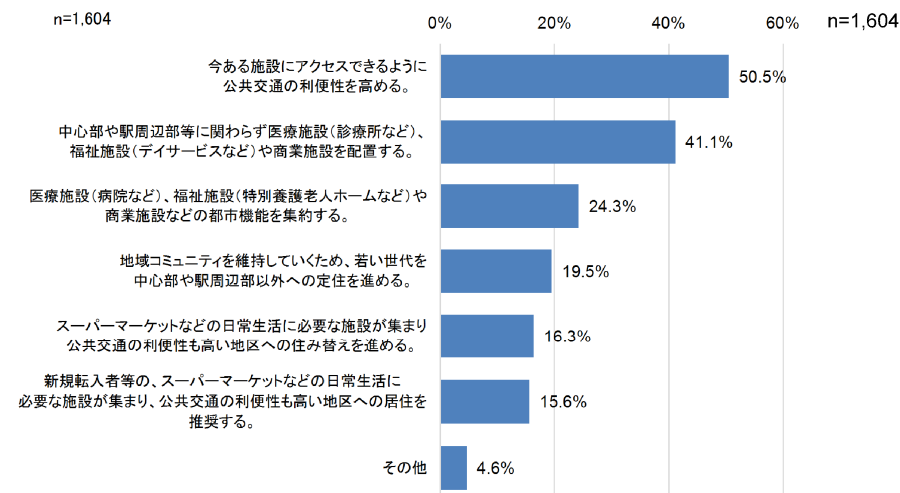
- 「鉄道やバスなどの公共交通の便がよいまち」への回答が最も多く、次いで「防災性に優れた安全・安心なまち」、「医療施設が近くにあるまち」への回答が多くなっています。
- 現行計画策定時に行った調査結果と比較すると、新たに項目が追加されたことにより、市民ニーズが分散した結果、前回の調査と差異が生じています。



(2) 小牧市のこれからのまちづくりについて

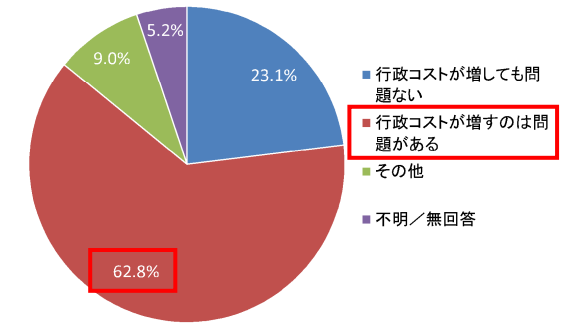
〈問13 P.56～58〉人口減少・少子高齢化が進んだ場合における、力を入れるべきまちづくりの対策

- 「今ある施設にアクセスできるように公共交通の利便性を高める」への回答が最も多く、次いで「中心部や駅周辺部等に関わらず医療施設（診療所など）、福祉施設（デイサービスなど）や商業施設を配置する」への回答が多くなっています。



〈問22 P.84～86〉まちづくりと市民1人当たりに係る行政コストの関係

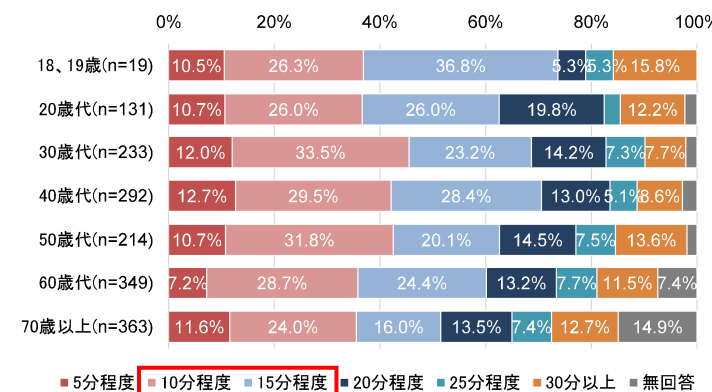
- 「現状の公共サービス（公共施設や公共交通等）の水準を維持するために、行政コストが増すのは問題がある」への回答が最も多くなっています。



(3) 普段の行動について

〈問11 P.41～46〉徒歩や自転車で移動が可能な時間

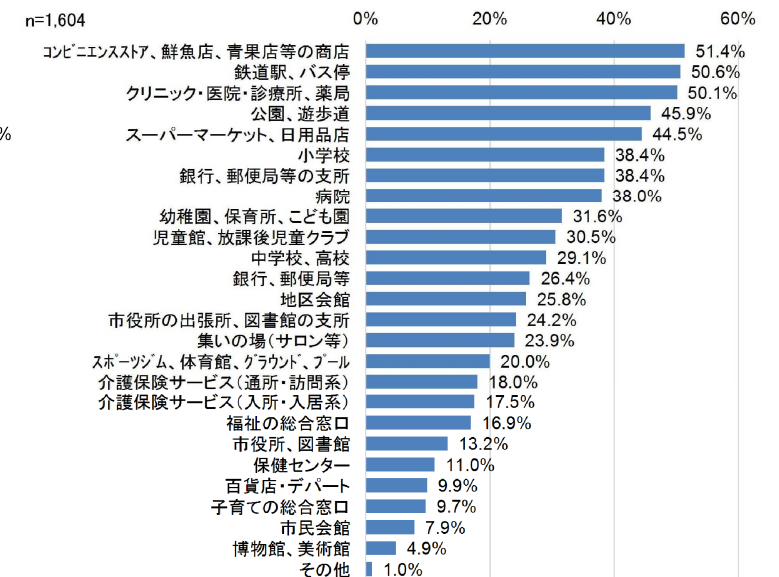
- 徒歩で移動が可能な時間については、「10分程度」、「15分程度」への回答がいずれの年代でも多くなっています。
- 自転車で移動が可能な時間については、20歳代以下では「30分以上」と回答した方が多くなっているが、30歳代以上では、「10分程度」、「15分程度」と回答した方が多くなっています。



※上記グラフは徒歩で移動が可能な時間を示したもの

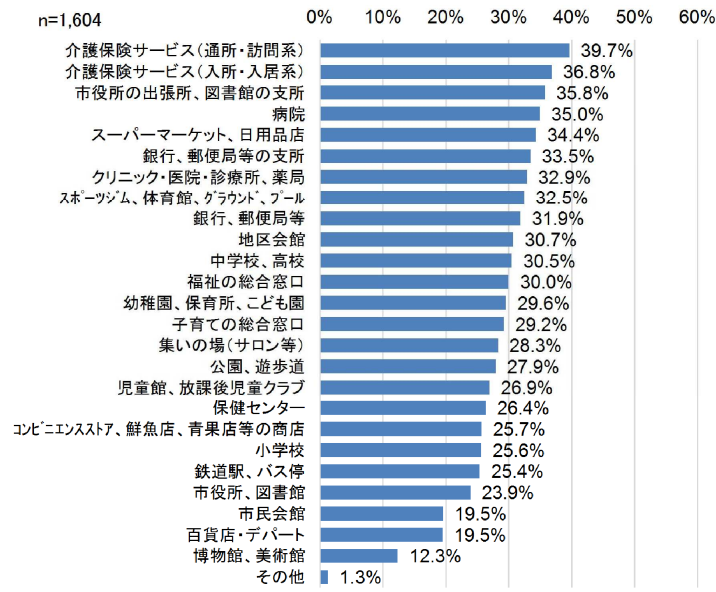
〈問12 P.47～49〉徒歩で移動できる範囲にあるとよい施設

- 徒歩圏にあるとよい施設では、「コンビニエンスストア、鮮魚店、青果等の商店」、「鉄道駅、バス停」、「クリニック・医院・診療所、薬局」への回答が多くなっています。



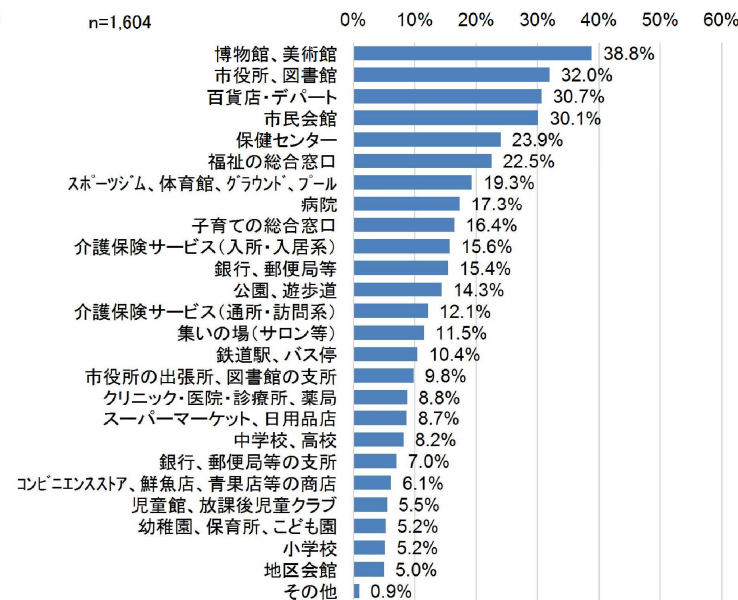
〈問 12 P.50~52〉お住まいの地域にあるとよい施設

■お住まいの地域にあるとよい施設では、「介護保険サービス（通所・訪問系）」、「介護保険サービス（入所・入居系）」、「市役所の出張所、図書館の支所」への回答が多くなっています。



〈問 12 P.53~55〉中心市街地にあるとよい施設

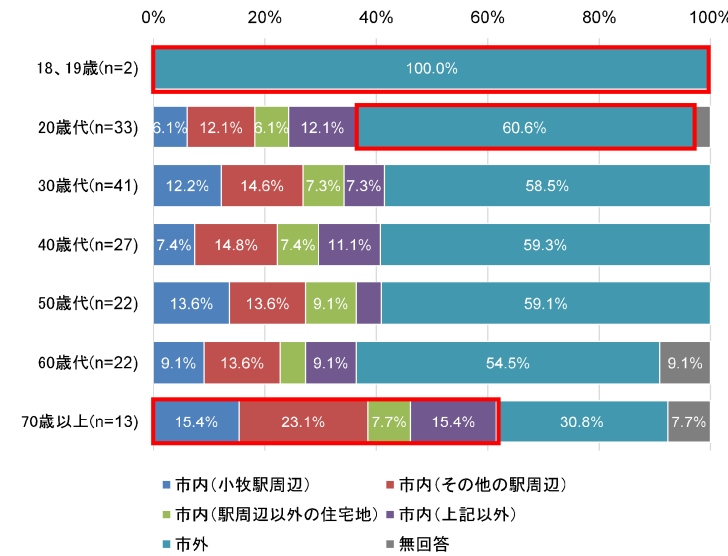
■中心市街地にあるとよい施設では、「博物館、美術館」、「市役所、図書館」、「百貨店・デパート」への回答が多くなっています。



【「住み替えの意向がある方への質問」

〈問 16 P.66~68〉住み替えたい場所

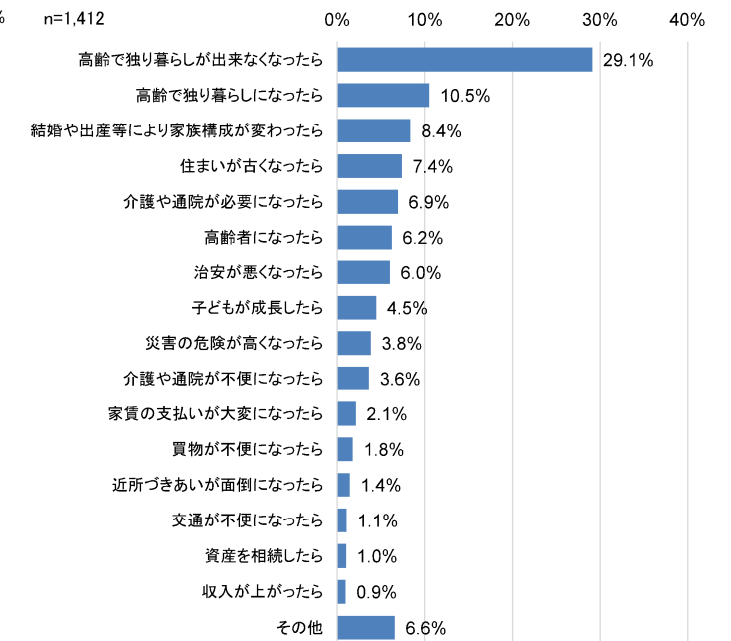
■「市外」への回答がいずれの年代でも多くなっています。
■年齢別では、20歳代以下では市外へ住み替え意向が多く、70歳以上では市内への住み替え意向が多くなっています。



【「今後も住み続けたい」、「現時点ではわからない」方への質問」

〈問 18 P.72~74〉住み替えが必要になると想定される状況

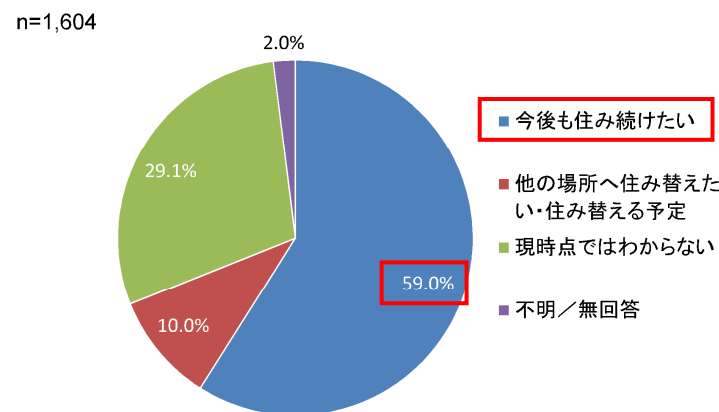
■「高齢で独り暮らしが出来なくなったら」への回答が最も多くなっています。
■年齢別では、20歳代以下では「結婚や出産等により家族構成が変わったから」への回答が多くなっているが、30歳代から「高齢で独り暮らしが出来なくなったら」への回答が多くなっています。



(4) 定住・住み替え意向について

〈問 14 P.59~61〉現在の場所での居住継続意向

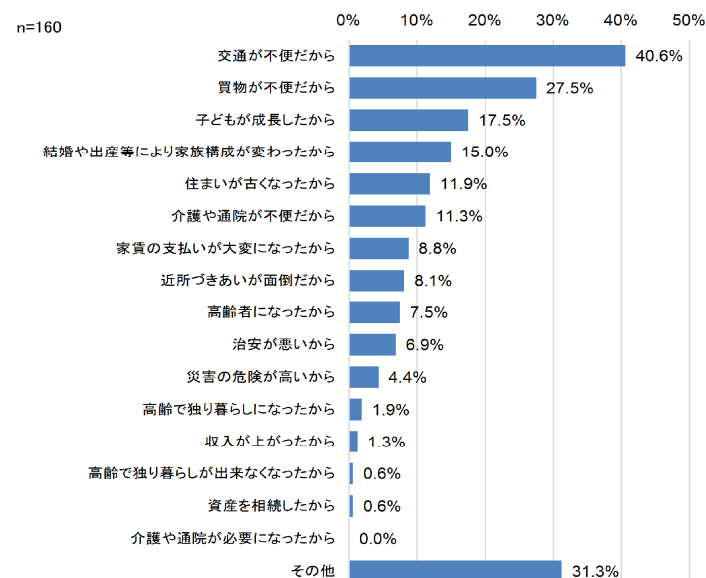
■「今後も住み続けたい」への回答が最も多く、次いで「現時点ではわからない」への回答が多くなっています。
■年齢別では、60歳代以上が他の年代と比べて「今後も住み続けたい」と回答した方が多く、20歳代、30歳代で「他の場所へ住み替えたい・住み替える予定」と回答した人が多くなっています。
■居住地別では、北里地区において「今後も住み続けたい」と回答した人が多くなっています。



【「住み替えの意向がある方への質問」

〈問 15 P.62~65〉他の場所へ住み替えたいと思う理由

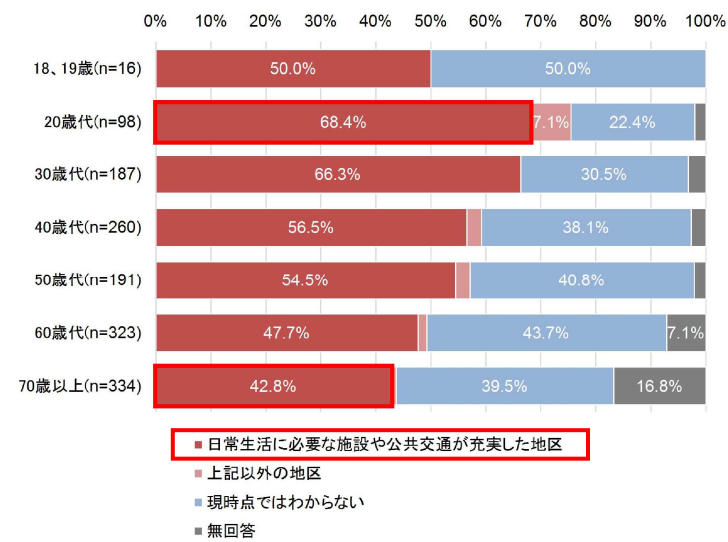
■「交通が不便だから」への回答が最も多く、次いで「買い物不便だから」への回答が多くなっています。
■年齢別では、30歳代では「家族構成が変わったから」、50歳代では「買い物不便だから」、70歳代では、「高齢者になったから」、「住まいが古くなったから」の割合が他の年代と比べて高くなっています。



【「今後も住み続けたい」、「現時点ではわからない」方への質問」

〈問 19 P.75~77〉住み替えてもよいと考える場所

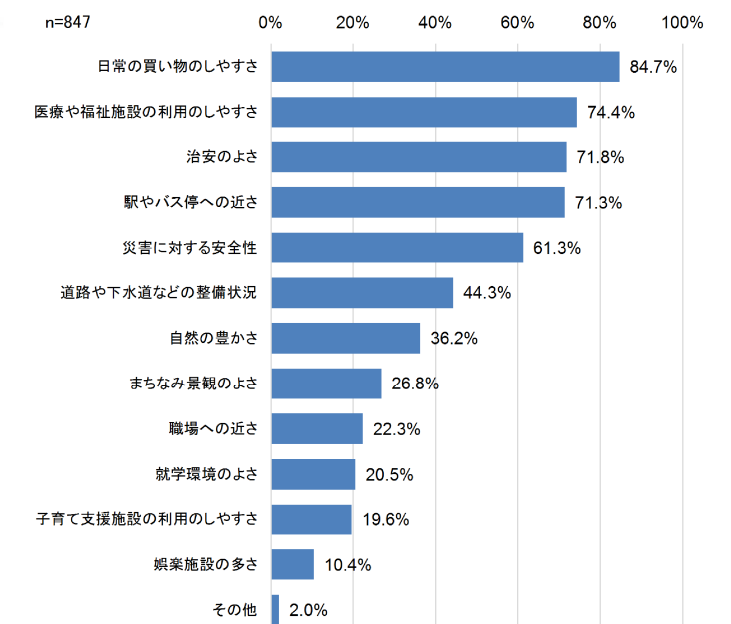
■年齢別では、20歳代で「日常生活に必要な施設や公共交通が充実した地区」への回答が他の年代に比べて多くなっています。



【「今後も住み続けたい」、「現時点ではわからない」方への質問」

〈問 20 P.78~80〉重要と考えられる居住の条件

■「日常の買い物のしやすさ」への回答が最も多く、次いで「医療や福祉施設の利用のしやすさ」、「治安のよさ」、「駅やバス停への近さ」への回答が多くなっています。



3. 調査結果のまとめ(主な事項)

〈問 6 (P10~20)〉

■お住まいの地区の環境や日常生活について、「公共交通の便」、「交通安全対策」、「災害時の安全性」、「生活道路の整備状況」といった項目で満足度は低いですが重要度が高くなっているため、改善を進める必要性が求められています。なお、前回の調査時と比べて市民ニーズに大きな変化は見られません。

〈問 7 (P21~23)〉

■10~20年後のまちの将来像としては、前回の調査と同様に「鉄道やバスなどの公共交通の便がよいまち」、「防災性に優れた安全・安心なまち」が求められており、また、今回の調査で新たに追加した「医療施設が近くにあるまち」についても求める声が多いことから、今後のまちづくりの方向性を検討する際に、念頭に入れる必要があります。

〈問 13 (P56~58)、問 22 (P84~86)〉

■今後、人口減少・少子高齢化が進んだとしても、今ある施設にアクセスできるように公共交通の利便性を高めることや中心部などの拠点となりえるところ以外にも施設の配置を求める声が多くなっているが、一方、行政コストが増すことについては、抵抗を感じる方が多い結果となっていることから、なぜ、コンパクトシティが必要なのかといった認識を高めていく必要があります。

〈問 11 (P41~46)〉

■徒歩で移動が可能な時間と自転車で移動が可能な時間が年齢別で差が出ていることから、今後、都市の拠点（中心拠点・生活拠点）を検討する際に、念頭に入れる必要があります。

〈問 12 (P47~55)〉

■徒歩で移動できる範囲、居住している地域、中心市街地に求められている施設について、それぞれ異なる施設を求められていることから、都市の拠点（中心拠点・生活拠点）の検討や都市機能の誘導の方向性を検討する際に、念頭に入れる必要があります。

〈問 14 (P59~61)、問 15 (P62~65)、問 16 (P66~68)、問 18 (P72~74)〉

■定住・住み替え意向については、定住意向のほうが強い傾向が見られるが、住み替え意向のある方では、交通が不便であることや買い物がしにくいことを理由に、住み替えを検討しており、その多くが市外への住み替えを希望している。また、定住意向の方でも「高齢で独り暮らしが出来なくなったら」住み替えを検討するといった結果も出ていることから、居住機能の誘導の方向性を検討する際に、念頭に入れる必要があります。

〈問 19 (P75~77)、問 20 (P78~80)〉

■住み替えをする場合、多くの方が駅周辺をはじめとした日常生活に必要な施設や公共交通が充実した地区を希望しており、居住の条件としては、「日常の買い物のしやすさ」が最も求められており、高齢者では「医療や福祉施設の利用のしやすさ」、20歳代以下では「治安のよさ」、「駅やバス停への近さ」が求められていることから、居住機能や都市機能の誘導の方向性を検討する際に、念頭に入れる必要があります。